

議事録

テーマ	平成29年度 第2回魚津市子ども・子育て会議		
場 所	魚津市役所	日 時	平成30年1月31日(水) 14:00~16:00
参加者	富山県立大学 名誉教授 奥田 實 魚津市社会福祉協議会 事務局長 内海 三佐雄 魚津市民生委員児童委員協議会 舟木 里加子 魚津市保育研究会 会長 吉田 由佳 魚津市民間保育連盟 代表 長勢 たかみ 魚津市幼稚園教育研究会 代表 山浦 春美 魚津市小学校長会 代表 新夕 佳子 魚津市中学校校長会 会長 宝田 幸嗣 魚津市PTA 連合会 代表 稗島 由美子 うおづ女性の会 監事 石倉 啓子 新川厚生センター魚津支所 支所長 中嶋 寿絵 魚津市母子保健推進員連絡協議会 副会長 大嶋 昭子 魚津市公民館連合会 代表 高瀬 忠次 魚津市自治振興会連合会 谷林 正昭 魚津市商工会議所 事務局長 大崎 敏治 連合富山新川地域協議会 幹事 西尾 秀樹 公募委員 高木 寛子 公募委員 荒木 沙矢佳		

魚津市役所

民生部長	吉川 高広
教育委員会教育次長	武田 寛
こども課長	宮野 司憲
健康センター所長	森山 明
学校教育課 学校教育係長	田村 理子
健康センター母子保健係長	上田 洋美
こども課 子育て支援係長	石浦 満理子
こども課 保育係長	山本 春美
こども課 保育係	舟津 友見子

株式会社ジェック経営コンサルタント

第四事業部 黒川 水野

1. 会議の内容について

(1) 吉川民生部長挨拶

子どもの貧困調査を実施し、その結果を踏まえて事業計画に反映させていきたい。委員の方々からのご意見を頂き、実態に沿った計画を策定し、実施していきたい。

(2) 委員長、副委員長の選出

委員長は奥田 實 氏、副委員長は内海 三佐雄 氏に決定。

(3) 奥田委員長挨拶

近年、自殺者は減少傾向にあるが、19歳以下の自殺者は増加している。過指導、親の殺傷なども増加している。こういうことが起こらないために幼少期の教育がいかに大切かということが言える。

素案による計画書が策定され、仮称「魚津市の子どもの未来応援計画」と子どもの明るい未来のための計画ということで、このような名称にしたい。

平成27年3月に策定した「魚津市子ども・子育て支援事業計画」に追加版として策定する。期間は2カ年である。

2月、3月にパブリックコメントがある。

(4) 子供の貧困支援計画策定事業について

質問者：魚津市社会福祉協議会 事務局長 内海三佐雄 委員

○8調査結果から見える本市の実態と求められる課題 > (2) 生活の支援

・生活面・食事面に関して具体的にどのような対応をしていますか？

⇒食育の推進やこども食堂の設置

・衛生面に関して具体的にどのような対応をしていますか？

⇒現在は対応案なし。

・「週1日以上朝食を食べない日がある」「週1回以上お風呂に入らない」といったことはネグレクトなのか否か。否の場合の対策として、こども食堂の新設だけでなく、民間の力を借りる、発揮してもらえるようにする必要がある。

○第3章 施策の展開 > 1. 施策の5つの柱 > (1) 教育の支援

- ・幼児教育の充実事業の担当課を「こども課」に修正

○第3章 施策の展開 > 1. 施策の5つの柱 > (2) 生活の支援

- ・要保護生徒対策地域協議会の生徒相談所とはどんな活動をしている施設ですか？
変換ミス 「要保護生徒」 ⇒ 「要保護児童」に変更
- ・子育て支援センター（仮称）はどのような活動をしている施設ですか？
⇒「母子手帳の発行」「4ヵ月検診・1歳6か月検診・3歳検診」などの検診を行う。
健康センターと子育て支援センター併設する事で、
妊娠届 ⇒ 検診 ⇒ 子育て支援までを一貫して行う。
また、上記に加えて、新たに産後ケアを行う。

○2子どもの貧困に関する指標

- ・No.1・2で「該当なし」となっているがどういうことですか？
⇒生活保護の世帯で子どもがいるのは1世帯のみ。
その世帯は、高校・大学に進学する方がいなかったので「該当なし」と記載。

発言者：新川厚生センター魚津支所 支所長 中嶋寿絵 委員

○8調査結果から見える本市の実態と求められる課題 > (2) 生活面に関すること

「週に1回以上朝食を食べない日がある」や「週に1回以上お風呂に入らない」は、低所得者だからなのか、ネグレクトの傾向があつてなのか、判断が難しい。
もし、ネグレクトならば、幼稚園または保育所から気がかりな人が上がってきて要保護児童の方で問題解決の対応をしていくことになると思う。

ほんとに、お金がなくて三食食べられない子ども、学校給食のみで栄養補給をしている子どもがいるような家庭が実際にどのくらい存在しているのか今回の調査からは見えない。
保育所・幼稚園・小学校・中学校の先生はそういう状況が分かっているのではないかな？

こども食堂の必要性を考えると同時に、民間企業・市民の力を借りて、食品が余っているところから、貧困な家庭に流すような取り組みもいいのではないかな？

関係者の役割の部分では、市が対応していることになっているが、民間企業・市民の行動力のある方たちが力を発揮できる環境作りをしてほしい。

○2子どもを取り巻く状況 > 6魚津市子育て家庭アンケートによる調査結果

> (3) 普段の生活について

- ・「お風呂に入らない」の質問の内容がおかしくないですか？
⇒「あなたの普段の生活の中で次のようなことはどのくらいありますか？」
の質問から選択方式となっている。

(2) 住吉保育園の民設民営化について

質問者：魚津市社会福祉協議会 事務局長 内海三佐雄 委員

- ・民間の受け手はいるのか？
⇒現状は把握していない。
希望としては、市内の保育園に請負ってほしい。
- ・定員1500名から200名ほど差があるが、
保育園を新設する必要があるか再検討してほしい。
- ・新設のための隣地確保。隣接する市営住宅の取り壊しにより確保。

質問者：魚津市自治振興会連合会 代表 谷林正昭

- ・加計問題や森友問題のよううわさが立たないようにしてほしい。
⇒審査の公平性を保つために情報公開する

質問者：魚津市公民館連合会 代表 高瀬忠次

- ・経田保育園の話もあったが現在はどうなっているのか？
⇒経田保育園を認定こども園化する話があったが、現在停止中
- ・住吉の認定保育園は定員20名？
⇒今現在、40人程度の園児がいるが、認定こども園化することで
あくまでシュミュレーションだが、70人に増えればいいなと考えている。
- ・全体的に認定こども園の児童の1号2号等の割合はどのぐらいになるのか？
⇒1号：7%で、2・3号：93%

(3) 公立保育園における土曜拠点保育の実施について

質問者：魚津市社会福祉協議会 事務局長 内海三佐雄 委員

- ・利用希望者はどのぐらいいるのか？
⇒希望を取っているところ。現在は、把握できていない。
2～3週間前から予約などを受け付けて対応する。
- ・管理責任者は、毎週変わるのか？
⇒園長クラス（8人）の人材で交代して対応する。
また、拠点園である道下保育園の保育士は毎週2人配置する。

(4) 当面の放課後児童クラブの進め方

質問者：魚津市社会福祉協議会 事務局長 内海三佐雄 委員

- ・学童はよつば校下だけになる。高学年への対応はどのようにするのか。
⇒基本的に、低学年から優先して対応している。
高学年の受け入れも行っているがあくまで低学年優先で対応する。

また、実態は高学年の利用者は少ない。

当初手をあげていても低学年の利用者が多いことから利用をやめるケースが多い。

4. 報告事項

□富山県立大学 名誉教授 奥田 實 委員

(1) 子ども・子育て支援事業計画に関する中間年における一部見直しについて

追加項目の「5. 子どもの貧困対策の充実」では「貧困」の表現を使っているが問題ないか？

⇒「魚津市子どもの未来応援計画」と一貫性がある形で修正を検討します。

5. その他

□魚津市公民館連合会 代表 高瀬忠次

・ひとり親家庭等学習支援事業どこでどのように行っているのか？

⇒週一回、日曜日の午後7～9時まで大町公民館でボランティアに教えて頂いている。

来年度以降からは2か所に増やしてやっていく予定。

以上